



「だいくとおにろく」

松居直/再話 赤羽末吉/画

福音館書店 E/A

昔、なんと橋をかけても流れてしまう川に橋かけを引き受けた大工が、困っていました。す

ると川の中から鬼が現れ、橋をかけてやる代わりに目玉をよこせといいます。大工が生返事していると、2晩で橋をかけてしまった鬼が、目玉をよこせと大工にせまりました。そして、自分の名前を言い当てたら目玉はゆるしてやろうと言います。鬼と大工の会話が楽しい絵本です。



「ゆきむすめ」

内田莉莎子/再話 佐藤忠良/画

福音館書店 E/サ

こどもがいないおじいさんとおばあさんは、雪で女の子のゆきむすめを作りました。すると突然ゆきむすめが動きだすではありませんか。ゆ

きむすめは、大切に育てられました。ところがある日、女の子達の遊びに誘われ、焚き火の飛び越え遊びをすることになりました。ゆきむすめが飛び越えると…。



「はじめてのおつかい」

筒井頼子/作 林明子/絵

福音館書店 E/A

みいちゃんは、ママに頼まれて赤ちゃんの牛乳を買うため、1人で買い物に出かけます。お

店に行く途中でいろいろな事が起きます。やっとお店に着くとそこでも買い物するまで一苦労。ママの愛情とみいちゃんのがんばりを感じることができる絵本です。

読み聞かせおすすめ絵本

5, 6才ぐらいから

●5, 6才の頃は、以前よりも長いストーリーの物語絵本を楽しめるようになります。また、知識や科学の絵本も楽しめるようになります。

♪ふれあいのある絵本の読み聞かせで、楽しい時を過ごしましょう！

八千代市立

大和田図書館	482-3240
八千代台図書館	482-0912
勝田台図書館	484-4946
緑が丘図書館	489-4946



「ぐるんぱのようちえん」

西内ミナミ/作 堀内誠一/絵

福音館書店 E/ホ

ぐるんぱは、とっても大きなぞうで、ずっとひとりで暮らしてきました。働きに出かけますが、ピスケット、お皿、靴、ピアノ、自動車を、みな大きく作ってしまい、「もうけっこう」と言われてしまいました。でも、子だくさんのお母さんに頼まれ、子どもの世話をすることになったぐるんぱは、幼稚園を開園し、自分の作った物が子ども達に喜ばれ、幸せになりました。



「おなかのかわ」

瀬田貞二/再話 村山知義/絵
福音館書店 E/M

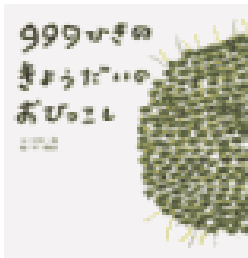
欲張りな猫は、友達のオウムが作ってくれた食事では足りずに、オウムを食べてしまいます。それでも足りずにおばさん、王様、かにと次々に食べていきます。かにかがはさみを使って猫のお腹を切り、皆は外に出ることができました。欲張った猫はお腹の皮を直すのに大変です。



「せんたくかあちゃん」

さとうわきこ/作・絵 福音館書店 E/サ

せんたくかあちゃんは、洗濯が大好き。何でも洗って干してしまいます。おへそを取りに来たかみなりさままで洗って干してしまいました。かみなりさまが乾くと顔が消えているので、顔を描いてあげると大喜びで帰りました。次の日、顔を描き直して欲しいとかみなりさまが大集合です。



「999 ひきのきょうだいのおひっこし」

木村研/文 村上康成/絵
ひさかたチャイルド E/M

春です。かえるのお父さんとお母さんと 999 ひきのかえるの兄弟の住んでいる池は手狭になったので、引越しすることになりました。池の外はヘビやとんびがいて危険が一杯です。無事に引越しすることができるでしょうか。家族の絆を感じる絵本です。



「すてきな三にんぐみ」

トミー＝アンゲラー/作 いまえよしとも/訳
偕成社 E/U

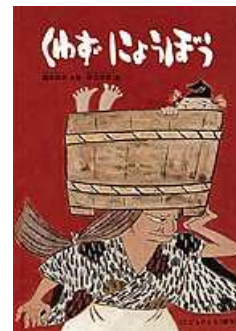
ある夜、腕利きの 3 人組みのどろぼうは、何も盗るものが無かったので、みなしごのティファニーちゃんを盗み、隠れ家へ連れていきました。ティファニーちゃんに集めた宝の使い道を聞かれたのですが、考えていなかったので捨て子や孤児を集めて、すてきなことに使うことを決めました。青と黒を基調とした影絵のような絵本です。



「ペレのあたらしいふく」

エルサ・ベスコフ/作・絵
おのでらゆりこ/訳 福音館書店 E/ベ

ペレはこひつじを持っています。こひつじの毛から、毛糸を紡ぎ、染色し、生地を作り、ペレの服が仕立て上がるまでには、多くの人の協力が必要となります。いろいろな人が携わり、協力しながら材料が形になることを実感できる絵本です。



「くわずにようぼう」

稲田和子/再話 赤羽末吉/画
福音館書店 E/A

よく働いて飯を食べない女房は、実は鬼ばばでした。このことを知った男は食われそうになります。危機一髪で逃げ出します。逃げても追ってくる鬼ばばは、菖蒲とヨモギが大嫌い。5 月の節句の頃におすすめの絵本です。



「三びきのこぶた」(イギリス昔話)

瀬田貞二/訳 山田三郎/画

福音館書店 E/ヤ

びんぼうなので、おかあさんから、自分で暮らしていくように言われた、三びきのこぶたは、外へ出かけました。それぞれ、わらの家、木の家、レンガの家を建てますが、おおかみがやってきて、わらと木の家を建てた、こぶた二ひきは食べられてしまいます。けれども、

三びき目のこぶたは、知恵でおおかみをやっつけてしまいます。三回の繰り返しと、こぶたとおおかみの会話が愉快です。



「くまのコールテンくん」

ドン・フリーマン/作 松岡享子/訳

偕成社 E/フ

くまのぬいぐるみのコールテンくんは、デパートのおもちゃ売り場で、誰かが買ってくれるのを待っていました。ある日、女の子がコールテンくんを

欲しがりました。でも、おかあさんは、ボタンがとれていると言い、行ってしまいました。その夜、コールテンくんはボタンを探すために、デパートの中を歩き回ります。



「そらまめくんのベッド」

なかやみわ/作・絵 福音館書店 E/ナ

そらまめくんのたからものはふわふわのベッドです。グリーンピースやえだまめくん、ピーナッツくんが頼んでも誰にも使わせません。ある日、そのベッドが無くなりました。探しにいくと、うず

らのおかあさんがベッドでたまごを温めていました。



「お風呂だいすき」

林明子/絵 松岡享子/作

福音館書店 E/ハ

お風呂の大好きなぼくとあひるのプッカがお風呂にはいると、湯気の中から、かめ、ペンギン、オットセイ、かば、くじらとつぎつぎ動物達が現れました。せっけんを飲み込んだオットセイの口から

シャボン玉が出てきたり、かばは、体を洗ってほしいと言ったり、お風呂の中で動物達と楽しくすごします。



「とべ!ちいさいプロペラき」

山本忠敬/絵 小風さち/作

福音館書店 E/ヤ

小さいプロペラ機が、格納庫の中で、初めて空へ飛び立つ日を待っていると、そこへ大きなジェット機がひと休みしにやってきました。どう

どうとしたジェット機に、プロペラ機は気落ちしますが、ジェット機は励ましてくれます。翌日、プロペラ機は胸をはって空へ飛び立ちました。はじめて空へ飛び立つ小さなプロペラ機の気持ちが伝わってくる絵本です。



「かえるのいえさがし」

中谷千代子/絵 石井桃子、川野雅代/作

福音館書店 E/ナ

夏の間、かえるの親子は楽しく暮らしました。秋になって、冬ごもりの穴を見つけるのが遅くなってしまいました。穴はすでに誰かが入っていて空いているのは、なかなか見つかりません。やっと大きな穴を見つけま

したが、声をかけると大きなへびが出てきました。



「かぼちゃひこうせんぷっくらこ」

スベン・オッター／絵

レンナート・ヘルシング／文

奥田継夫、木村由利子／訳 アリス館 E/オ

おおくまとこぐまが、種を植えました。するとそれは、
どんどん大きくなりかぼちゃになりました。二ひきはか
ぼちゃをくりぬいて、そこに引越して住むことにしまし

た。かぼちゃの家は、嵐になると、海に浮かんで船になり、寒くなったので、
かぼちゃの部屋を暖めると空に浮かんで飛行船になりました。



「3びきのくま」

バスネツオフ／絵 トルストイ／文

おがさわらとよき／訳 福音館書店 E/ハ

ひとりの女の子が、森へ遊びに行き迷ってしまい、
3びきのくまの家に入りました。3びきのくまはちょうど
散歩中で家にいませんでした。女の子が、3びきのく
まのおかゆに手をつけたり、椅子を壊してしまったり、
ベッドに寝たりしていると、そこへ3びきのくまが帰ってきました。大きい、

中くらい、小さいという3回の繰り返しが楽しい絵本です。



「こがねのあしのひよこ」

秋野ゆきこ／再話・絵 福音館書店 E/A

こがねの足を持ったひよこが、王様を取られた片
足を取り戻そうとお城へ出かけて行きました。途中
で会ったきつね、ライオン、トラも一緒につれて行き
ました。ところが、王様はこがねの片足を返してくれ
ません。それどころかひよこをなき者にしようとしま

す。そこで、きつね、ライオン、トラなどの力を借りて王様のたくらみに対抗
します。



「ピーターのいす」

エズラ・ジャック・キーツ／作・画

木島始／訳 偕成社 E/キ

ピーターに妹が生まれました。おかあさんから
は「静かにしなさい。」と言われ、また、ピーターの
ゆりかごも、食堂椅子も、みな妹の物にかわって
いました。ピーターは残った椅子を持って家出を

しましたが、その椅子は、ピーターにはもう小さすぎることに気づきます。
妹が生まれた男の子の気持ちが伝わってきます。



「くんちゃんのだいいりょう」

ドロシー・マリノ／文・絵

石井桃子／訳 岩波書店 E/マ

くんちゃんが、おとうさん、おかあさんと森に散歩
にいくと、鳥達が南の暖かい方へ飛んでいくところ
でした。くんちゃんも行きたがりました。おとうさんは
「やらせてみなさい。」といい、おかあさんも、くんちゃん
を見送りました。一人で出かけたくんちゃんでした

が、途中必要な物を思い出しては、そのたびに家に取りに帰ってきました。



「ラチとらいおん」

マレーク・ペロニカ／文・絵

とくながやすもと／訳 福音館書店 E/マ

ラチは、こわがりで、とても弱虫な男の子です。
らいおんがいたら、怖くないのに、とっていたら、

ある朝小さならいおんがいます。小さならいおんでは、役に立たないとラチ
は大笑いしますが、らいおんにはかかないません。強くなるため、ラチは、ら
いおんに鍛えられます。らいおんとの出会いによるラチの成長が感じられ
る絵本です。